はしがき

学校長　太　田　雅　夫

新学習指導要領は、既に平成元年に公示され、平成６年度から実施に移される。本校では、来る11月に「新学習指導要領の実施にむけて」というテーマで、第14回高校教育研究協議会を開催する運びとなった。これまで本校では、新指導要領に即応したカリキュラム作成のため検討を重ねてきたが、この研究協議会を機に、その成果の一部を発表することとなった。

本校の教育課程や教育計画は、このように学習指導要領の改訂によって再検討の必要性が生じたが、また本校は進学希望者が多いので、大学の入学試験の在り方によって大きく影響を受ける。さらに金沢大学の附属学校では統合移転が実施途上にあり、幼稚園から高等学校までの全附属学校が一貫した教育をめざしている。既に用地取得は概ね完了し、現在、全体の配置計画が作成されつつある。

このような状況下にあって、本号に掲載された５論文は、新教育課程の検討に関するものが殆どである。すなわち本校の教育課程作成に向けての取り組みに関するもの３編、新教育課程に関するアンケートの結果報告１編である。純然たる研究の成果をまとめたものは巻末の１編である。以下、各論文の概要を掲載順に述べておこう。

西野教官は、昨年の「新教育課程～本校での取り組みについて～」に引き続き、その後の本校における教育課程委員会での検討経過を報告している。理科、地理歴史科及び公民科の時間数の再検討、地理歴史科及び公民科の講座制の廃止に伴う別案検討をはじめ、３年次における単位の格差、本校の教育課程編成上の方針などの検討を重ねた後、附属高校として特色あるカリキュラムを作成することができたという。この論文は、これらの経緯を報告したものである。

高橋教官は、地理歴史及び公民分野の新しい構成と展開について論述している。まず指導要領改訂の意味、高校社会科の改訂の特徴とその意義に関して論じた後、本校の社会科の現状、昨年度に提案された「講座制カリキュラム」の問題点とその講座制に代わる本校の新カリキュラムの特徴を、教科・科目構成、選択コース、単位配分等の点から詳しく論じている。

数学科の教官は、新学習指導要領に従った本校数学科の指導計画を説明している。本校数学科の数学教育に関する基本的な考え方、教育目標及び教育方法、指導計画作成にあたっての基本的な考え方を述べている。その結果、進路に応じた二つの類型と、習熟度に応じたクラス編成を行うこと、コンピュータ等の教育機器を活用して指導効果を高めること等を中心として指導計画が立てられている。

倉教官と深田教官は、本校と事情のよく似た“進学校”全国50校を対象にして、教育課程や授業内容等に関する意見を調査し、その結果を報告している。筆者らは、全般領域、物理分野、生物分野等の回答から、新指導要領が、進学校のカリキュラムの自由編成を困難にしてきている状況や、探究活動をどのように位置付けるかについての戸惑い、コンピュータ使用に関する問題点等を読み取っている。

滝野教官は、文部省体力テストのうち、体力診断テストの踏み台昇降運動を取り上げ、台高の相違による運動後回復期脈拍の変化について、形態との関連も含めて検討した。すなわち1988年に本校１年及び２年生男子を対象に踏み台昇降運動を実施した結果を分析し、運動前安静時脈拍数や運動後回復期脈拍数の台高の相違による差異や身長・体重が運動後回復期脈拍数や判定指数に及ぼす影響について検討を加えた。

読者の皆さんの忌憚のないご意見・ご指導を賜われば幸いである。